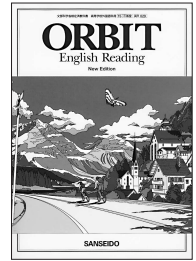


# 『ORBIT English Reading New Edition』 の編集にあたって

京都ノートルダム女子大学 高梨庸雄



1学期は次年度採択する教科(科目)の改訂内容が教科会議の議題に入ってくることが多い。高校生の多様化が話題になってからかなりの年数が経っていますので、カリキュラム編成がコースの多様化につれて複雑になってきています。教科書の内容や難易度をよく検討し、生徒の実態に合った指導ができるように慎重な検討が求められています。

昨年度は高校カリキュラムに見え隠れる建前と本音が社会問題になったこともあり、新学期を迎えて、学習指導要領の枠内で英語の6科目をどのように組み合わせるかが生徒にとって最も効果的かを考える際には、必ずしも実証されていない「思い込み」で教科カリキュラムを編成することのないように注意する必要があります。そこでORBIT Readingをもとに、リーディングのあるべき姿を考えてみましょう。

今回の改訂に際しては、指導されている先生方を対象にORBITに関する詳細なアンケート調査を実施し、それに基づくORBITの分析を行いました。そして、いただいたご意見をできるだけ活用させていただく方向で改訂版の内容並びに編成を検討しました。

## 1. Orbit English Readingの特徴

### (1) 段階的難易度に配慮した教科書構成

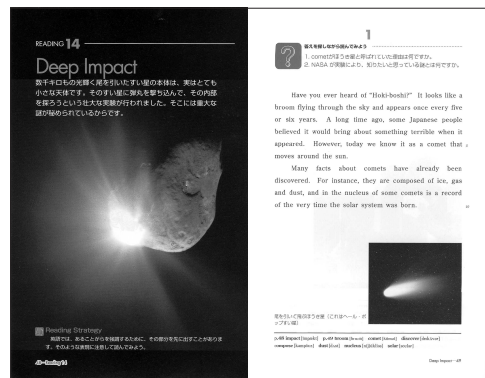
ORBIT English Readingは刊行以来、幸いにもコンスタントに採用されておりますが、多感な年代の高校生に感動を与えると同時に、日本や外国の社会及び文化について考えさせる中身の濃い教材を心がけてまいりました。中身の陳腐な教材は文字によるコミュニケーションに値しないし、生徒の興味や関心を引きつけることはできないからです。

またORBITでは、教科書構成において内容の

バランスと共に難易度のバランスにも留意して全体を4ステージ構成とし、はじめの方は約150語程度の短く平易な教材で構成し、少しずつ長いものへ挑戦させて読む力を養成できるようにしております。今回の改訂では、この特徴をより一層徹底させるように努めました。

### (2) Reading Strategies

中身の濃い教材が難しいとは限りません。むしろ平易な英語で中身の濃いメッセージを送るのがコミュニケーションの神髄であると考えています。外国語学習は、どのスキルであれ、限られた授業時数の中で一定の効果を上げることが求められます。周囲が英語という学習環境で行われるESL (English as a Second Language) とは、その点で大きく異なります。そのためORBITでは、教科書の4箇所 (p.31, p.80, p.129, p.150) にReading Strategiesのページを配しております。それぞれ具体例を伴った解説を読むことによって、生徒は文章展開の形や約束事を知り、それを教科書の文章を通して実際に確認することができます。その一助としてStage 1とStage 2の各課の本文末尾にStrategy Check! を設け、その課の文章を読む時に役立つ重要なストラテジーを実践できるようになって



います。このような活動を通して習得する力はライティングにおいても役に立ちます。学習指導要領では英語科は6つの科目に分かれておりますが、英語というひとつの言語に関するものですから相補関係にあることが望ましいのは当然です。近年、readingからwritingへ、listeningからspeakingへと、cross-skillsと呼ばれる指導の関連性が重視されております。

## 2. 文字による多様なコミュニケーション

文字によるコミュニケーションは「生徒が情報や考えなどの受け手や送り手になるように具体的な言語の使用場面を設定して行う活動」（高等学校学習指導要領 外国語編）で、「リーディング」では次の4つの活動が求められています。

- ア. まとまりのある文章を読んで、必要な情報を得たり、概要や要点をまとめたりする。
- イ. まとまりのある文章を読んで、書き手の意向などを理解し、それについて自分の考えをまとめたり、伝えたりする。
- ウ. 物語文などを読んで、その感想を聞いたり、書いたりする。
- エ. 文章の内容や自分の解釈が聞き手に伝わるように音読する。

以上の活動はORBITではどのように教材化されているかを次に説明します。

## 3. ORBITの具体的な内容

(1) まず、上記アの活動として、多彩でわかりやすい題材を用意しました。軽い小話やジョーク (Reading 1, 4, 11, Take a Rest)、不思議な雰囲気ショート・ストーリー (Reading 10)、日本から発信された標語 (Reading 21 *Mottainai*) 等がその例です。また文字によるコミュニケーション形式の多様性を生徒に知ってもらうために、新聞記事 (Reading 16)、新聞広告 (Take a Rest) の他、現在、文字によるコミュニケーションでは不可欠のE-mail (Reading 3) やInternet (Reading 20) も取り入れております。また、若者に夢を与える宇宙科学物として *Deep Impact* (Reading 14)、生きる勇気を与える *A Real Superman*

(Reading 18) の実話を入れました。

- (2) イの活動に関しては、各課に「内容を確認しよう」を設けて、各課の文章の内容上の要点に焦点を当てて問題を設定してあります。またStage 3からは、「きみの考えは？」というセクションで、「文章を読んで、生徒が自分の考えなどをまとめたり、伝えたりする」活動ができるようになっています。
- (3) ウの活動としては、各課のセクションの冒頭に「答えを探しながら読んでみよう」という活動を入れ、「目的を持ったリーディング」を実践できるようにしております。また、前述の「きみの考えは？」で述べたように、生徒に「物語文を読んで、その感想を話したり、書いたりする」ことを求めています。さらに、Readings 15, 25では「感想文を書いてみよう」というページを設けて、生徒が「食わず嫌い」になっている感想文の書き方をstep by stepに指導しております。
- (4) 最近の英語習得に関する研究では、音声と文字の認識が大変重要な関係にあることが指摘されております。この視点からエの活動の音読について考えてみると、高校レベルの音読のさせ方は再検討すべきであり、教師・生徒双方の意識改革が必要です。「高校生くらいになると、感情を込めて音読することに心理的な抵抗を感じるようになるものだ」と決めつけしないで、内容に即した自然な音読ができる教室の雰囲気教師が率先して作るようにすべきです。教科書付属教材のCDも積極的に活用してほしい。Stage 3において「声に出して読んでみよう！」に音読指導の見本を示すと共に、教師用指導書にも音読についての解説編を準備しております。

最後に語彙指導について触れますと、巻末のWord List Aには固有名詞をまとめ、Word List Bには、①中学校必修語彙 (\*付き)、②既習語扱の語彙 (ページナンバーなし)、及び③初出ページを記した語彙の3段階で表示して、学習の目安として利用できるように配慮してあります。